

健康生活への意識を高める活動について

木村 美登里

1. 児童会活動の目的と実践化

児童会活動における各委員会の活動は、自分たちの学校生活を、より向上させ、より豊かにしていくための実際の活動を分担して行うものである。この特別活動は、児童の自発的・自治的な活動を通して、「自主性」や「社会性」の育成・或いは「個性の伸長」を育てることを目的としている。

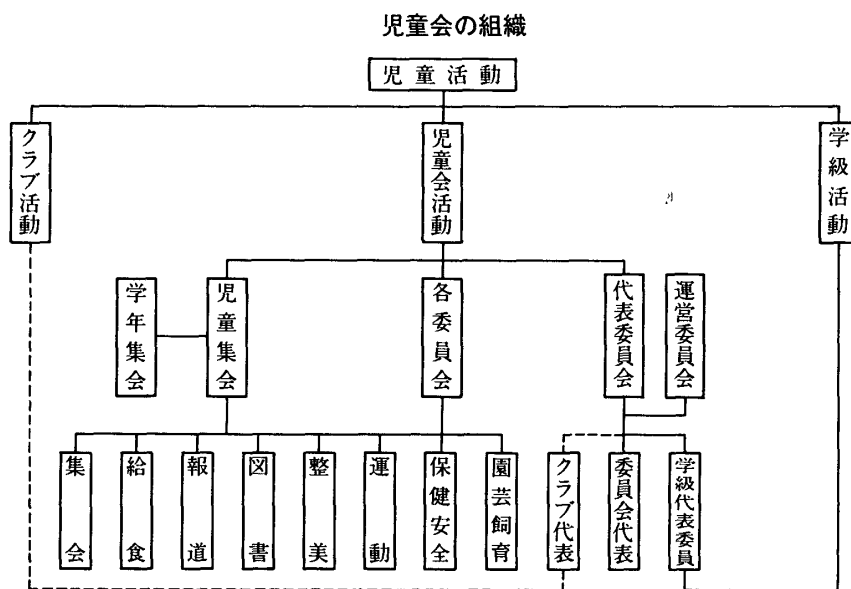
したがって、保健指導においても、教師が主導権を持ち進められるものとは違い、学級指導や学校行事等で修得した保健に対する実践的な態度や習慣を生かし、自発的、自治的な問題解決のための教育活動として、実践していかなければならない。

児童保健委員会の活動内容としては、学校における健康生活上、どのような問題があるかを基本に置き、子どもたちにとって、なるべく身近で具体的な問題を取り上げる。それを自分たちの意志と能力によって実践し、解決していくことができるような内容を、常時活動、定期活動、そして年間活動として、取り入れるべきであると考え。その内容は、

- ① 健康診断や調査の結果から、実践に必要な情報を提供する。
- ② 健康生活を促進するための広報活動を行う。
- ③ 病気予防に対する啓蒙活動を行う。

の3つを基本として、子どもたちの創造性を生かせる内容に取り組み、興味・関心を深め、次の活動へと意欲を持って発展させていかなければならない。指導計画を立てるにあたっては、教師が前面に出すぎてしまったり、養護教諭の補助的な活動が多くなると、委員としての自覚や使命感が失われることがある。それで、教師は予め基本的な枠組を定めておき、実際の活動にあたっては、子どもたちの手によって一層具体的な実施計画を立てることができるような弾力性、融通性に富むものでなければならない。

2. 本校の児童会活動

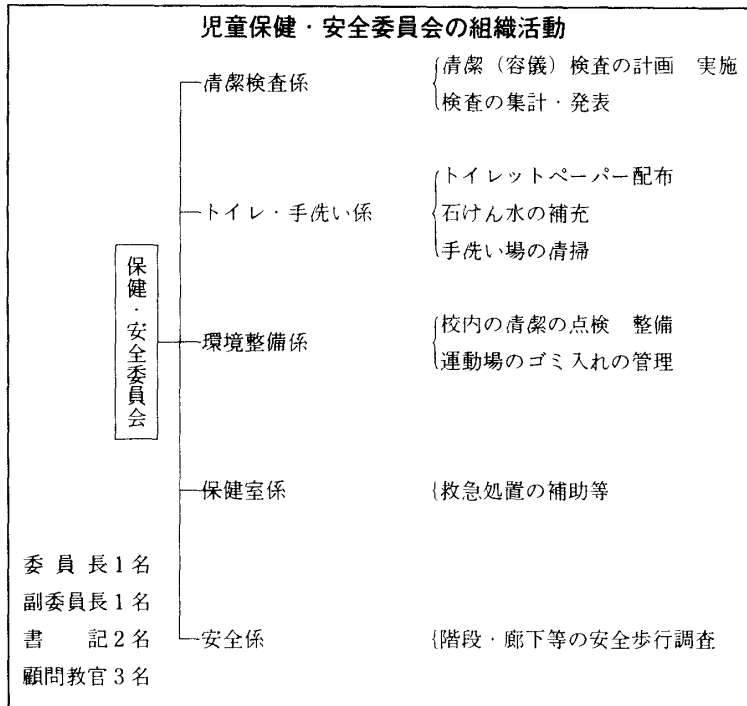


本校の児童会活動のねらいは、児童に活動の主体性を持たせ、組織的、集団的な活動を通して、学校集団の生活をより向上させる、というものである。その活動を通して、

・学校生活を向上発展させるために、自発的、自治的に諸問題を話し合い解決させる。

・東雲小学校の一員としての自覚を深め、自主的、社会的態度を身につけさせる。

・児童交互の人間関係を通して、児童の民主的な個性の伸長をはかる。
こととしている。



保健・安全委員会においても、以上のことを踏まえ、東雲小学校の子どもたちが学校生活を健康に送るための推進者としての、自覚とプライドを持つことができるよう育てていかなければならない。

本校における児童会の定期的活動は、毎週月曜日の6校時に位置付けられ、第1、3月曜日には、主に話し合い活動を行っている。話し合いの内容は、それぞれの係活動(左図参照)の反省やその時々に応じた、校内での健康状況についてなど、子どもたちから、或いは教師側から問題を提起し以後の活動へと発展させていくよう工夫している。

3. 実践事例

(1) VTR製作 ——「歯を大切にしよう」——

6月の保健目標「歯を大切にしよう」に合わせ、保健・安全委員会として、全校児童に対し、どのような発表をするかを決めなければならない。これは、毎年、保健・安全委員会が行っている恒例行事とも言えるものである。発表の方法については、ポスター作りや舞台劇などの案も出るが、VTRを製作し、給食時間に放送する、というのが、ここ数年続いている。5月下旬に実施される6年生の宿泊学習「山の学習」終了後、具体的な活動に入る。

この取り組みの導入として、活動に対する意欲を喚起させるため、これまで製作したVTRを問題意識を持った上で視聴し、合わせて、養護教諭による虫歯の保健指導を行った。その後、発表方法について話し合いを持ったが、例年のVTRによる全校放送を見慣れているせいもあるのか、他の意見については活発な提案や発言もなく、賛成多数でVTR作りに決定した。VTRの内容は自分たちの手で調べ、作った資料をもとに歯の健康について発表することになった。資料準備係、発表資料製作係、VTR撮影係に分け、それぞれの活動日程を組んだ後、各々の日程の都合と活動内容の希望を考え合わせ、係を決定した。その際、子どもたちの興味や意欲を尊重するため、各係の人数を限定せず行ったが、やはりVTR撮影係に希望者が固まった。また、“一番楽だから”と、資料準備係に仲良しグループが集まったりで、人手が必要な資料作成係が3名と少なく、いつもながら、子どもたちの自主性に任せることのむずかしさを痛感した。しかし、この活動は、新編成された保健・安全委員会の初めての系統立った組織活動であるため、教師の干渉は必要最小限に押さえ、この取り組みを今後の活動の足がかりにする必要がある。子どもたちがぶつかるであろう壁を前もって教師が忠告するより、自分たちの貴重な経験として、今後に生かしていきたい。1つの取り組みに対し、子どもたち自らが問題意識を持ち、それを話し合い、解決の方法を発見し、役割を分担して、それを責任を持って遂行することの意義は大きいと考える。そして、その取り組みを行ったことにより、全校児童への、健康意識の啓発となったことを実感できれば、また、次の活動への意欲へと継がるであろう。

活動日程と内容は下図に示している。放送予定日を、6月4日「虫歯予防デー」としたため、日数は十分ではなかったが、短期集中型の活動となり、子どもたちの意欲も衰えることなく、充実した活動となった。

係活動の日程と内容について

5月24日(月)話し合い活動

「虫歯予防デー」での発表について提案をする(教師)。その際、意欲付けとなるよう、本校での虫歯の実態を子どもたちに伝える。発表方法については参考として、昨年のVTRを見せる。

委員長、副委員長により、教師の提案がまとめられ、委員とともに、活動内容、日程等について話し合う。

5月26日(木)資料準備係活動

放課後、集めた資料を持ち寄る。家庭医学書、図書室の本、歯科医からもらった資料、インタビューの内容をまとめたものなどがある。その中から、作成する資料を選び、発表についての構成を行う。

5月28日(土)資料作成係活動

資料準備係が構成した資料の作成。4つ切の画用紙に、それぞれが工夫をして、絵の具、クレヨン、ポスターカラー等を使って描く。係は3名であったが他の係の者も集まったため、資料の構成を変更した。結局、予定の2倍の資料を作成。この日に仕上がらなかった資料については、次の委員会活動の日までに完成させることを約束する。

5月30日(月)話し合い活動

仕上がった資料を、子どもたちに紹介。教師がその資料を使い、資料準備係が構成した内容で指導を行う。

6月2日(木)VTR撮影係活動

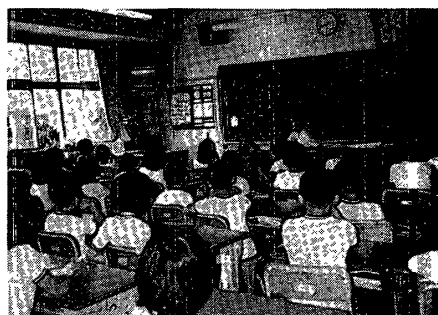
機器の操作は教師が行う。資料の説明は、休憩時間を使い、何度か練習を行った。約10分間の内容を、2時間費して撮影を終える。終了後、係児童や手伝いをした委員と試写を行う。

6月6日(月)話し合い活動

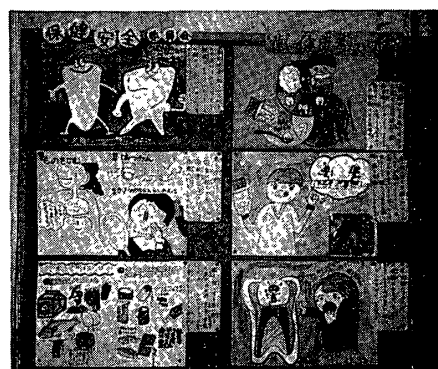
「虫歯予防デー」に放送の予定が、テープの編集の都合で延期に。その旨を伝え、委員全員で試写会。その後、この活動の反省について話し合う。

6月15日(水)全校放送

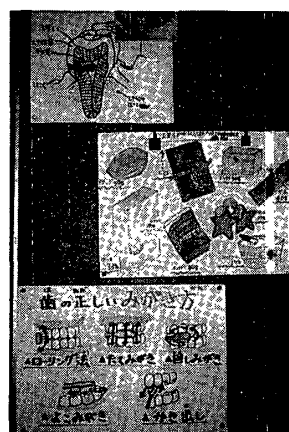
学級指導の時間に全校放送を行う。



校内放送の様子



発表資料①



発表資料②

今回、委員会の製作したVTRは、学級指導の時間に放送されることになった。学級指導の時間を、委員会活動の一環としての発表の時間とするのは、不適當である。そこで、委員が製作したVTRに、学校歯科医から借りたVTRを継ぎ、15分間の内容にして放送した。

放送した後、教師或いは児童から「わかりやすかった。」「歯磨きの仕方を変えた。」「絵がきれいだった。」等の感想が得られ、また保護者からも「ビデオを見てから、嫌いな牛乳も、進んで飲むようになりました。」という声が聞かれた。

一委員の感想より一

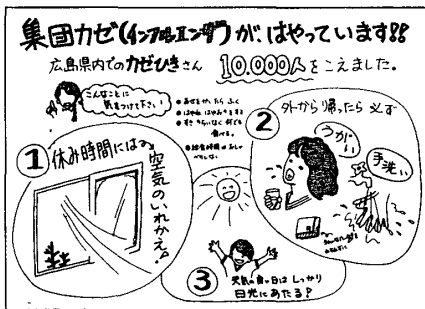
ぼくは、保健・安全委員会のビデオで、しゃべる係です。最初の方は、きんちようしていました。みんな自分の仕事をいっしょうけんめいに取り組んでいました。ぼくもがんばりました。それで大脊戸先生にほめられたのでうれしかったです。ビデオを放送する時になりました。一番最初にぼくが歯の役目について発表しました。どんどん進んでいき最後にみんなの顔がうつりました。やっとビデオの放送が終わりました。気持ちよかったです。

6年生の人といっしょにするなんて、うまくできるのかなあ、と思ったけれど、みんな協力できてよかったです。一中略一しばらくたって朝の会の時うつされることになりました。1番はじめに私のかいた絵がうつりました。うれしかったです。ビデオがおわったときホッとしました。先生も話をしてくれたのでよかったですと思いました。とっても感動しました。この仕事をもとにこれからもがんばってやりたいです。

(2) 風邪の予防 ——「窓をあけよう」——

3学期に入り、全国的にインフルエンザの流行が伝えられる中、本校でも1月下旬より、その兆候が感じられた。昨年の流行時には、中学年の罹患者が著しく増え、1クラスの欠席者が多い日には15名と、平常の授業を実施できない状態が4日間続いた。それからの流行は更に、低学年、高学年へと移行し、2月から3月にかけての約1カ月間そのような状態が続いた。今年は、11月下旬に厳しい冷え込みがあり、風邪の流行の時期が早まり、全国的な流行も昨年を上回っていた。しかし、それでも「後半猛威型」の流行と言われたため、3学期に入ってからの大流行も多いに予想されることであった。

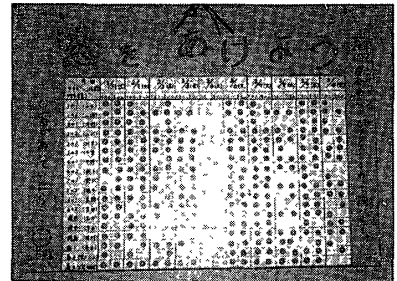
本校では、1月下旬より徐々に欠席者が増え始めたため、保健室から各学級へポスターを配布し、(下図)、風邪の予防を心がけるよう指導を行った。



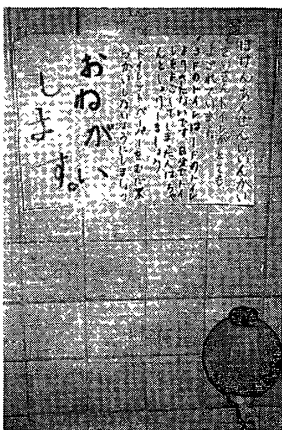
保健室から各学級へ

保健・安全委員会でも、それを議題に取り上げ、予防措置の1つである、教室の換気を徹底して行うことを目標とした。「窓をあけよう」というタイトルの表を保健室のドアに貼り、各学級の窓の開閉状況を調べた。一人の委員が一学級を担当し、大休憩、昼休憩に教室の窓の開閉を確認して、シールを貼る活動とした。各々の責任を明確にするために、担当学級の横に委員の氏名を入れ、意欲化を図った。委員の中には、活動を忘れる者もいたが、その委員の担当学級の子どもたちが、直接その委員に不満を告げるなど、活発な活動となった。取り組みの結果、昨年の流行時に比べ、欠席者が2分の1であり、流行期間も大変短かったことから、この活動の効果があつたと思われる。その後の話し合い活動の時間に、欠席状況のデータを提示した。それにより、子どもたちもこの活動における達成感を得られたようである。

保健・安全委員会でも、それを議題に取り上げ、予防措置の1つである、教室の換気を徹底して行うことを目標とした。「窓をあけよう」というタイトルの表を保健室のドアに貼り、各学級の窓の開閉状況を調べた。一人の委員が一学級を担当し、大休憩、昼休憩に教室の窓の開閉を確認して、シールを貼る活動とした。各々の責任を明確にするために、担当学級の横に委員の氏名を入れ、意欲化を図った。委員の中には、活動を忘れる者もいたが、その委員の担当学級の子どもたちが、直接その委員



(3) 常時活動 ——「トイレを美しく使おう」——



この活動は、トイレ・手洗い係のみの活動ではなく、委員全員で取り組む、63年度中の課題となった。子どもたちのトイレトーパーやスリッパの使い方が悪いため、トイレ内が雑然としてしまう状態であった。この活動は、まず、スリッパを美しく整えることから始まった。「いつも、きちんとスリッパがそろっていれば、脱ぐ時も気を付けるのでは」と、スリッパが整っていないことに気が付けば、すぐその場で活動する、ということを目指した。その後、各々がポスターを作り、手洗い場や(左写真)サニタリーボックスの上に貼り、全校児童への啓蒙活動を実施している。しかし、なかなか全校的に定着しないため、委員の意識も徐々に低下しているのが現状である。

3. おわりに

ここでとり上げた事例は、教師が問題を提起し、子どもたちがそれを取り上げ、実践したものである。委員会活動は、ともすれば、不活発で受動的な活動になりがちだが、それでは主体性を持つ活動の“楽しさ”や“やり甲斐”を得ることはできない。マナー化する活動に新しい課題や問題意識を持たせるのは、教師の役割であると考えられる。もちろん何事にも意欲を持ち、積極的に取り組む姿勢を持った子どもを育てることが前提であるの言うまでもない。